

三三三〇番

こもくりの 泊瀬の川の 上つ瀬に 鶉を八つ潜
 け 下つ瀬に 鶉を八つ潜け 上つ瀬の 鮎を食
 はしめ 下つ瀬の 鮎を食はしめ くはし妹に
 鮎を惜しみ くはし妹に 鮎を惜しみ 投ぐるさ
 の 遠ざかり居て 思ふ空 安けなくに 嘆く空
 安けなくに 衣こそば それ破れぬれば 継ぎつ
 つも またも合ふといへ 玉こそば 緒の絶えぬ
 れば くくりつつ またも合ふといへ またも逢
 はぬものは 妻にしありけり

三三三一番

こもりくの 泊瀬の山 青旗の 忍坂の山は 走
 り出の 宜しき山の 出で立ちの くはしき山ぞ
 あたらしき 山の 荒れまく惜しも

三三三二番

高山と 海とこそば 山ながら かくも現しく
 海ながら 然直ならめ 人は花ものそ うつせみ
 世人